



東京学芸大学リポジトリ

Tokyo Gakugei University Repository

小学校英語教科書における英語の文字の出現頻度

メタデータ	<p>言語: Japanese</p> <p>出版者: 東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科</p> <p>公開日: 2023-10-27</p> <p>キーワード (Ja): 英語科教育, 小学校, 英語の文字の頻度, 教科書, ETYP:教育関連論文, SSUB:英語</p> <p>キーワード (En): English education, elementary school, frequency of English letters, textbooks</p> <p>作成者: 小竹, 空翼, 伊東, 哲</p> <p>メールアドレス:</p> <p>所属: 東京学芸大学, 啓明学園初等学校, 東京学芸大学</p>
URL	<p>http://hdl.handle.net/2309/0002000058</p>

小学校英語教科書における英語の文字の出現頻度

小竹 空翼*・伊東 哲**

これまでに多くの研究結果から、英語の文字の出現頻度が文字の習得に影響することが明らかになっている。本研究の目的は、小学校英語教科書における英語の文字の出現頻度を調査し、教科書を通して児童が英語の文字にどの程度接触しているかを明らかにすることである。本研究においては文部科学省発行の外国語活動教材と7社の出版社による検定教科書の計17冊を分析対象とした。教科書に出現する英語の文字は、視認性に問題がある文字を除き、全て分析対象とした。その後、指導内容に関する部分で出現する文字と、その他の部分で出現する文字を区別するために、それぞれタイプ1と2に分類した。分析においては、(a)各教科書における総文字数とその内訳としての大文字、小文字、タイプ1、タイプ2の文字数、(b)各文字の出現頻度と教科書間の傾向の違い、(c)ローマ字書きの日本語として出現する文字の占める割合、(d)文字の一般的な出現頻度との相関を調査した。分析の結果、(a)については、総文字数は検定教科書間でかなりばらつきがあり、文字の出現回数が最も少ない教科書と最も多い教科書では、約2倍の差があることが明らかになった。(b)については、各文字の出現頻度にかかなりの幅があり、大文字では最も出現回数の多かったLは、最も出現回数の少なかったXの約29倍、小文字では最も出現回数の多かったeは、最も出現回数の少なかったqの約103倍の出現頻度であった。さらに、文字の出現傾向が全体の傾向と異なる教科書があるかを

明らかにするために、各教科書における各文字の出現回数の期待度数を算出し、観測度数との比較を行なったところ、一部の文字が期待度数を大幅に超えて出現している教科書があり、主にタイプ2として出現している文字が出現回数を増加させていることが明らかになった。(c)については、ローマ字の占める割合は、全教科書の総計においては高くはないものの、特定の文字や教科書において割合が比較的高いケースが見られ、文字の出現傾向に影響を及ぼしている可能性が示唆された。(d)については、一般的な文字の出現頻度と教科書における文字の出現頻度の相関係数から、出現傾向は小文字においてはほぼ一致し、大文字においてもある程度一致することが明らかになった。本研究の結果は、使用する教科書の特徴を理解し、効果的な文字指導を実施するための一助となるであろう。

Key words

英語科教育、小学校、英語の文字の頻度、教科書

*東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科・言語文化系教育講座、啓明学園初等学校

**東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科・言語文化系教育講座